

平成26年度障害者の芸術活動支援モデル事業の事後評価について

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置

- ・「芸術活動支援センター」と「アートフェスティバル」などのイベント的な活動をうまく組み合わせて、これまで土壌のない宮城で実績を積んできている。
- ・ニーズ把握に基づくコンセプトの設定及び事業展開は評価できる。実践の普及についても震災を契機に東北からモデル事業を全国につなぐ活動は評価できる。
- ・障害者芸術活動支援センターの設置の事業について、相談窓口の設置、出張相談会の実施、人材育成のための研修、関係者のネットワークづくり、参加型展示会の開催等、細かく設定し実施されている。「成果と課題」を具体的に示されていてわかり易い。協力委員の各事業への参加・関与も積極的に行われている。展覧会のために、調査・発掘に踏み込んだのもよい。
- ・障害者のニーズ、支援者のニーズ、地域としてのニーズをきちんと捉え各事業を丁寧に実施されている。東京拠点の役割がわかりづらい。
- ・エイブル・アートの今までの活動の成果をもとに、活動全体がバランスよく行われていて評価できます。
- ・実施計画書に書かれていたような効果を東京事務局に認めることはできないと思われる。全体の計画はエイブルアート（東京）あってこそそのクオリティの高さであるから一概に否定できないとしても。

平成26年度障害者の芸術活動支援モデル事業の事後評価について

特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゅーるぼん

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置

- ・活動支援と展覧会などの発信事業を行い、広島都市部を中心に認知度を得ているという印象をもつ。製品化にも意欲的に挑戦している。商店街など、多くの人達が行き交う場所で芸術性と商品力の両方を追求して行ってほしい。
- ・事業の企画・運営に工夫が必要と考える。
- ・障害者芸術活動支援センターの設置の事業について、協力員の専門性を活かした相談対応、人材育成のための研修とワークショップの開催、都道府県との連携等、多岐の内容にわたって具体的に取り組まれている。展覧会の企業スポンサーの開拓は評価できる。協力委員会の設置について、委員会の下に「チーム会議」を置き、障害者芸術活動支援センターの設置の事業に関わるようにしているのはよい。
- ・製品化や展示会においては既に全国多くの施設が取り組んでいるので新たなアプローチ方法やモデル展開となるような取組がみられなかった。企業や商店会などを巻き込んで事業をされているので地域の活性へとつながることも視野に入れた取組は良かった。
- ・美術を通して「障がい者と社会」についての基本的な考え方を明確にしてほしい。
- ・製品化を基軸とした展開はユニークで評価できるが、活動の広報の方法については、一考の余地がある。現状では、自己満足的、あるいは、差異化ができていない。

平成26年度障害者の芸術活動支援モデル事業の事後評価について

社会福祉法人愛成会

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置、調査・発掘、評価・発信

- ・東京という広い範囲での活動となるため、短期間では、成果が出しにくいですが、可能性を感じる事業展開をしている。支援センター、委員会など専門性を感じるし、調査・発掘に期待したい。
- ・それぞれの事業を立ち上げて消化した感がある。事業それぞれの関係性と全体としてのまとまりがあるとより良いものになるだろう。
- ・障害者芸術活動支援センターの設置の事業について、4名のスタッフを置き対応しており、特に発掘した作者・作品の巡回展を実施したのは評価できる。協力委員会の障害者芸術活動支援センターの設置、調査・発掘、評価・発信の事業への関与・参画がされている。東京という大人口の地域での発掘・調査はアプローチがむずかしい面が多いと思うが、もう少し「出ていく」取組もほしいところである。
- ・相談支援、活動支援、人材育成など多方向で多数の事業を実施されたのは評価できる一方、展示会やイベントなど実施数が多いことで広報や調査、発掘などに十分な時間をかけることができなかつたのでは。
- ・この分野では、関西と比べると取組が遅れていると思いますが、東京は人口も多く、活動も多いため情報の発信に工夫が必要かもしれません。
- ・弁護士の無料相談会、特別支援教育関係者への調査など、地道かつ先駆的な取組は評価できるが、首都東京の拠点であるという自覚には、少し欠けたのではないか。

平成26年度障害者の芸術活動支援モデル事業の事後評価について

一般財団法人たんぽぽの家

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置、調査・発掘、評価・発信

- ・相談窓口、セミナー、インターン、ネットワークづくりなど人材育成事業を細かく実施しているところが丁寧である。参加人数を増やすためにも、より発信力を高めていくことを期待したい。
- ・事業の展開にあたって、ニーズ把握のための調査、相談窓口の設定、事業の実施のようにプロセスを経て実践しているところが良い。成果と課題及び今後の提案についての記述も丁寧に書かれており評価できる。
- ・事業内容が具体的・効果的に設定されている。特に障害者芸術活動支援センターの設置の事業の分野において明瞭である。アンケート調査により「ニーズ把握」から始めて手順よく的確に事業展開されている。成果と課題をわかり易く自己評価されていて、今後の展開のあり方も展望しやすい。
- ・全国的な活動をされている一方で地元奈良にもしっかりと視点を置かれていること又、選ばれた作家、作品だけでなく広いニーズに応える事業をされている。
- ・先駆的に全国の施設などのネットワークを作り、作品の発掘を行ってきた実績をふまえて、今回の実践に生かされている。きめ細かな活動がなされている。
- ・非常に丁寧な計画と進行でモデル事業にふさわしい。

平成26年度障害者の芸術活動支援モデル事業の事後評価について

社会福祉法人グロー

事業実施内容：障害者芸術活動支援センターの設置、協力委員会の設置、調査・発掘、評価・発信、モデル事業連携事務局の設置

- ・これまでの事業実績を踏まえて、短期間ながら一定の成果を出している。モデル事業連携事務局としての機能にも期待したい。
- ・著作権等権利保護及び障害者の美術活動の支援方法に関する研修会は実践的で評価できる。
- ・障害者芸術活動支援センターの設置の事業について、必要な事業内容が設定され、実施されている。協力委員会の設置の事業について、協力委員が調査・発掘、評価・発信、モデル事業連携事務局の設置の事業に関与・参加して進めている。調査・発掘、評価・発信の事業について、訪問調査と企画展の作品審査時の調査で発掘・評価から展示及び作品評価（魅力）テキストの作成と取組が具体的である。モデル事業連携事務局の設置の事業について、①～④の各事業項目について、全体に共通する課題をとりまとめてほしかった。
- ・これまでの経験や実績があることから拠点としての役割をさらに充実したものにされていると思います。
- ・グローの滋賀県との連携を含む、先駆的であり、地域および国際的な活動は大変評価できるものです。知的障がい者の美術活動が中心になりがちですが、他の障がいにも目を向けることにより新しい視点の作品もあるかもしれません。それから、アジアに対してもっと情報を発信する必要があります。
- ・全体に時間が短い中での実施は大変だったかと思われるが、ニーズ調査を行うなど、今一度基礎的な視点に立ち、今後事業をどうはばたかせてゆくかのヴィジョンを持つ時期に来ていると感じた。